WHO ETHICAL AND SAFETY RECOMMENDATIONS FOR INTERVIEWING TRAFFICED WOMEN

WHO

トラフィッキング（人身売買）された女性とのインタビューのための倫理と安全性に関する提言

日本語訳発行者　日本国法務省

WHO Library Cataloguing-in-Publication Data

キャシー・ジンマーマン
WHO ethical and safety recommendations for interviewing the trafficked women/ キャシー・ジンマーマンとシャーロット・ワットの２人によって作成。

１．倫理、調査研究 2. 安全性 ３．調査設計 ４．インタビュー方法
５．売春 ６．提言 I.シャーロット・ワット II.タイトル

ISBN 92 4 154615 5 (LC/NLM classification; HQ 281)

・ 世界保健機関（WHO）２００３

著作権所有。世界保健機関の出版物は、世界保健機関（WHO）マーケティング宣伝部：20 Avenue Appia, 1211 Geneva 27, Switzerland (tel: +41 22 791 2476; fax: +41 22 791 4857; email: bookorders@who.int) より購入可能である。WHO の出版物の複製・翻訳に関するリクエストは、販売、非営利の別を問わず、上記住所の出版部（fax: +41 22 791 4806; email: permissions@who.int）まで。

本書で採用、提示されている定義および資料は、いかなる国、領土、地域、各国の当局、その境界に関する法的地位、資格に関する世界保健機関（WHO）の意見を何ら示すものではない。

世界保健機関（WHO）は、本出版物に含まれた情報が完全で、正確であることを保証するものではなく、したがって、その利用によって生じたいかなる損害に対しても、責任を負うものではない。

これらの提言は、世界保健機関（WHO）ジェンダーと女性の健康部門の女性に対する暴力に対する倫理と安全に関する提言シリーズの一環である。

本書作成において貴重な役割を果たしてくれたロンドン大学衛生熱帯医学大学院と欧州委員会ダフネプログラムの両者に対して感謝する。この報告書で述べられている見解は、必ずしも、世界保健機関（WHO）、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院あるいは欧州委員会ダフネプログラムの見解を反映したものではない。

デザイン&レイアウト：ベッキー・シャンド
印刷：The Printed Word, West Sussex, the United Kingdom

WHO　Ethical and Safety Recommendations For Interviewing Trafficked Women 2003

世界保健機関（WHO）
ロンドン大学衛生熱帯医学大学院
欧州委員会ダフネプログラム

欧州委員会のダフネプログラム及び世界保険機関（WHO）の支援により、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院保健政策部が作成。

本書は「WHO　Ethical and safety guidelines for interviewing trafficked women」なる題名により２００３年世界保健機構により出版された。
著作権は２００３年世界保健機構に帰属。
世界保健機構総長は日本語訳版に係る翻訳権を法務省に対して承諾している。法務省は当該日本語版に関して唯一責任を有している。

謝辞

「WHO 人身売買された女性とのインタビューのための倫理、安全性に関する提言 （*WHO Ethical and Safety Recommendations for Interviewing Trafficked Wome*）」は、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院のキャシー・ジンマーマンとシャーロット・ワットによって作成された。

作成にあたり、テレス・カオエッテ、マリナ・ツベコバ（CHANGE、ロンドン）、マルチナ・バンデンバーグ（人権ウオッチ、ワシントン D.C.）、ブラッド・アダムス（人権ウオッチ、ニューヨーク）、サエ-タン・ジラポン（女性の人身売買に反対をする世界同盟、タイ）、イナ・シュヴァブ（ストラーダ、ウクライナ）、マルシア・アルブレクト(女性のトラフィッキングに反対する STV ファンデーション、オランダ)、ナディア・コゾーハローヴァ（アニムス、ブルガリア）、フランカ・ビンビ、ルカ・トラッポリンおよびマリアンゲラ・トレッピーテ（パドア大学社会学部、イタリア）、キャサリン・ユン（ハーバード・メディカル・スクール、ボストン）、イレーヌ・ピアソン（国際反奴隷協会）、アヌンスカ・ダークスそしてブルーノ・モーン（Payoke、ベルギー）の諸氏から、専門家の立場による数々の貴重なアドバイスが提供された。

クローディア・ガルシア-モレノ(ジェンダーと女性の健康、世界保健機関、ジュネーブ)、アリソン・フィニー（障害と暴力の予防、世界保健機関、ジュネーブ）、そしてジョー・ナース（ロンドン大学衛生熱帯医学大学院および世界保健機関)が提言部分の最終編集作業および見直しをおこなってくれたことで、大きな恩恵を得た。

提言は、欧州委員会ダフネプログラムと世界保健機関の協力により作成された。

目次

謝辞

はじめに 1

人身売買された女性たちの複雑な境遇 2

人身売買された女性に対するインタビューを
安全で倫理にかなったやり方でおこなうための１０の指針 5

1．　傷つけない 7
　1．1　インタビューを行うことを決定する 7

2．　自分のテーマを知り、リスクを査定する 8
　2．1リスクの及ぶ範囲を理解する 8
　2．2インタビュープロセスの各段階―リスクと提言 11
　　第1段階：最初の接触をする 11
　　第2段階：インタビューの日時と場所を確認する 13
　　第3段階：インタビューを行う 14
　　第4段階：インタビューを終了する 16

3．　照会情報を準備する：果たすことができない約束はしない 17
　3．1利用可能な資源と支援サービスを確認する 17
　3．2紹介リストにある組織と連絡、周知する 18
　3．3照会情報を提供するときには、慎重にする 18

4．　適切な通訳、協力者を選択し、準備する 19
　4．1通訳その他と協力する場合のリスクと恩恵を見きわめる 19
　4．2男性通訳あるいはインタビュアーの雇用に関連した問題点を考慮する 21
　4．3協力者やインタビュアーの安全、心の安寧を考慮する 21

5．　匿名性、機密性を守る 24
　5．1機密性を守る 24

6．　インフォームド･コンセントを得る　25
6．1同意を求める適切な方法　25

7．　女性が､自らの境遇、身の安全についてどう考えているか、耳を傾け、尊重する　28
7．1アドバイスや援助の提供　28
7．2自分の状況にかかわる女性の選択を尊重する　28

8．　女性に再び精神的痛手を与えない　31
8．1女性に再び精神的痛手を与えることは避けること　31

9．　緊急介入の準備をする　33
9．1緊急､即時支援を求める女性に対応する　33
9．2介入行動に関して、フォローアップをする準備をする　34
9．3当局への連絡に関する問題　35

10．集めた情報を有効に活用する　36
10．1情報を倫理的な方法でいかす　36

結論　37

参考文献　38

WHO　トラフィッキング（人身売買）された女性とのインタビューのための倫理と安全性に関する提言

WHO ETHICAL AND SAFETY RECOMMENDATIONS FOR INTERVIEWING TRAFFICED WOMEN

はじめに

強制売春やその他の隷属、搾取的状況を強いる女性や子どものトラフィッキング（人身売買）は、世界中で最も急速に増えている犯罪、最も甚大な人権侵害のひとつである。国連の「人の密輸議定書（*The United Nations Protocol to Prevent, Suppress, and Punish Trafficking in Persons, Especially Women and Children*）」は、トラフィッキングを次のように定義している：

「搾取を目的として、暴行・脅迫その他の様態の威迫、略取、欺もう、権限または弱い地位の乱用、又は他人に支配力を有する者の同意を得るために支払若しくは利益を提供し、若しくは、受領するという手段によって、人を募集、移送、蔵匿又は収受することをいう。搾取は、少なくとも、売春その他の性的搾取、強制労働、奴隷又はこれに類する行為、隷属又は臓器摘出を含む」[1]

トラフィッキングの急速な世界的広がり、そして政策立案者、援助資金供与者、 サービス提供者、メディアからのトラフィッキング情報に対する需要の高まりを受けて、人身売買されたことのある女性たちは、その経験を語るよう、ますます求められるようになった。女性たちは、いろいろな時点でインタビューを受けている。すなわち、今まさにトラフィッキング状態にあって、トラフィッカー（斡旋者）、雇用主やヒモの支配下にある時、トラフィッキング状況を離れ、たとえば、シェルター、サービス機関の保護下にあるとき、あるいは、帰国、帰宅したとき、あるいは、どこか別の場所に落ち着いた時など、さまざまな状況、時点でのインタビューが行われているのである。

これらの状況のいずれであっても、人身売買された女性にインタビューすることは、多くの倫理的問題、女性本人、彼女に近い人々、そしてインタビュアー自身の身の安全にかかわる懸念を提起することになる。そうしたリスク、さまざまな倫理的問題、そしてトラフィッキングにまつわるさまざまな現実についての正しい認識、理解を持っていることで、危険を最小限におさえることができるかもしれないし、また、女性が、要点をついた正確な情報を明らかにしてくれる可能性も大きくなる。

この中であげたさまざまな提言は、そもそも人身売買された女性の状況をよく知らない研究者、メディア、サービス提供者を対象にしたものである。未成年の女性にインタビューする際のリスクや義務についての議論は、ここでは特になされていないが、多くの原則を同様に適用することができる。

提言は、女性に対するトラフィッキングや暴力の専門家グループと協議するなかで、草案がねられた。専門家グループのほとんどが、人身売買された女性と直接働いている。

第一歩として、提言は、世界保健機関の「女性を最優先する：女性に対するドメスティック・

バイオレンスに関するリサーチのための倫理と安全性に関する提言（Putting Women First: Ethical and Safety Recommendations for Research on Domestic Violence Against Women）」および「人権とひとのトラフィッキングに関する国際理念とガイダンス（. International Principles and Guidelines on Human Rights and Human Trafficking）」に基づいている。

CIOMS(国際医科学機構評議会、国際医学団体協議会)「人を対象とする生物医学研究についての国際的倫理指針（International Ethical Guidelines for Biomedical Research Involving Human Subjects）」、「人身売買された人の取扱いのための人権基準（Human Rights Standards for the Treatment of Trafficked Persons）」、ジャーナリスト組合の行動規範そして各法執行機関のための人身売買された女性や性犯罪の被害者とのインタビュー手続ガイダンス。

ここにあげた提言は、現行の専門的な基準と関連させながら用いられるべきである。提言は、トラフィッキングの状況に現在ある女性、その状況を離れた女性とのインタビューをするにあたっての１０の基本原則を含んでいる。各論点の重要性についての説明、また、実際にどのように対処するのか、その具体的例が提示されている。しかし、これらの提言を、人身売買された女性を扱う全ての場合にあてはめることができるものとしてとらえるべきではない。[8]

家政婦として雇われた東欧出身の女性は、日常的なレイプ、その他多くの性的辱めをうけていた。家に戻ってからも、彼女は、肉体、精神の両面で苦しみ続けている。それにも関わらず、彼女は夫に、本当に何があったのかということを話せない。もし、何があったか知れたら、夫は自分や子どもを捨てて出ていってしまうと言い張るばかりだ。

人身売買された女性たちの複雑な境遇

人身売買された女性とのインタビューは、女性がまだトラフィッキングの状況にあるとき、サービス機関の保護下にあるとき、あるいは、トラフィッキングの経験を超えてすすんでいるとき、そして故郷の町や村に帰った時、あるいは新しい土地での新しい生活になじんでからなど、さまざまな時点で行われる。インタビューの時点で、トラフィッキングの状況にある女性の場合には、それに伴うリスクが最も大きいわけだが、そうした状況を既に脱した女性の場合においても、数え切れないほどのリスクを、女性の肉体面、精神面の両方に課すことになる。

トラフィッキングの状況にある女性の場合は、しばしば：

- 安全な出口のない罠にはまったような気分になる；
- 非公式の、しばしば不法、秘密のセクターで働いている；
- 人身売買された国に、不法に滞在している；
- 自分の権利や法的な選択肢について、ごく限られた知識しか持ち合わせていない；
- 限られた個人的自由しかない；
- 都市から都市へと渡り歩き、またひとつの組織からまた別の組織へと売買される；
- 肉体的、性的あるいは精神的虐待を受けている可能性、自分自身あるいは家族に対する虐待が及ぶ脅威にさらされている；
- 雇い主や仲介者からの暴力、罰金あるいは罰を受けやすい；
- 居住している国での法的地位がない。パスポートなど必要な書類を奪われており、強制送還されることを案じている；
- とりわけ、未成年の場合には、年齢を偽る；
- 借金による束縛やその他の組織犯罪、腐敗した政府役人、警察、軍人のからんだ厳しい拘束、抜き差しならない状況に追い込まれている；
- 倫理的、社会的、性的差別に直面する；そして
- 自己防衛反応、時間や場所の感覚がおかしくなる、特定の出来事についての記憶喪失、リスク行動あるいはリスクの過小評価をするといったトラウマ、ストレス症状を示す

トラフィッキングの状況を離

れた女性たちは、しばしば：

- トラフィッキングの状況（上記参照のこと）にあるときと同じ懸念、不安を抱えている；
- 依然として、トラフィッカーやトラフィッカーに関係しているものたちに見張られ、監視されていると感じている。そして事実その通りであることもある。（人身売買された女性の多くは、近くに住む誰か、しばしば、同じ町や村に住んでいるものによって、話を持ちかけられている）；
- 多額の借金を抱えていたり、トラフィッカーたちに借金があったりする（トラフィッカーの計算に基づくものだが）；
- 多くのものは、自分自身そして家族に対する報復を受けやすい、弱い立場のままにある；
- 受け入れ国では、一時的な居住資格しか持たず、すぐに強制送還されるかもしれないことを恐れている；
- もし過去の出来事が明らかになると、自分の経験、従事していた仕事によって、社会的に非難され、レッテルを貼られていると感じ、また実際そうであることが多い。また、家族やコミュニテイーの住民によるリスク拒否もある；
- その状況から脱した後、極度のストレス反応によわくなる。以前の心理的生き残りのメカニズムを捨ててしまっている；
- その経験を話すことは、それをもう一度生きることになると感じている；
- さまざまなサービス（あるいは滞在資格）は、自分の協力、服従の姿勢にかかっていると思っている。だから、インタビューに応じるのだが、さもなければ、断っている。

上にあげた理由の多くのため、人身売買された女性を支援する各サービス機関は、保護下にある女性たちとのインタビューを求めるジャーナリスト、研究者などからのリクエストを断ることがよくある。

しかしながら、人身売買された女性がみな、トラウマを抱え、自らを被害者だと思い、捕捉者を憎み、家に帰りたがっていると決めてかかるべきではない。

人身売買された女性の安全と幸せに影響を与える要因は、情報の開示に影響を与える要因と同じである。

多くの女性は、矛盾し、どっちつかずの曖昧な感情を抱えているかもしれない。
たとえば：

- 女性たちが、人身売買ネットワークの関係者と親密な関係にあったり、ネットワークに関係していたり、忠誠心や感謝の念、あるいはいずれにせよ、「捕らわれ」状況に関わっている人物に依存していたりする。

- 多くの女性は、自分自身が「人身売買」されたとは考えておらず（国連、その他が定義したところによる）、被害者として扱われることを望んでいない。自分の経験は、契約を果たすためにやむを得ず行ってしまったまずい決定の結果であるととらえているかもしれない。そして、女性たちの中には、借金を返すまで、そして自分や家族を養うためのほんの一時的な状況と考えているものがいるかもしれない。

- 女性たちは、自分たちの労働環境を、虐待的、奴隷同然の状態とはとらえていないかもしれない。そしてまた、搾取的な関係に対しても不服を唱えないかもしれない。

こうした複雑さが、女性に接近し、お互いの間に信頼を確立し、彼女たちの協力そして正直で偽りのない回答を得ること、そして彼女たちの決定や反応を十分理解することを困難にさせてしまうことがある。

適切な安全策、倫理的手順をとることで、回答者、インタビュアー両者の利益を守ることになる。もし、細心の注意を払いながら中立的な方法でアプローチすれば、多くの女性が、自分の体験を語る機会を持つことによって恩恵を受けることができる。

同様に、自分が尊敬され、その幸せこそが重要で優先されると女性が感じる度合いが大きければ大きいほど、自分の体験をより正確に、詳細にわたって話してくれる可能性が高くなる。人身売買された女性の安全と幸せに影響を与える要因は、情報の開示に影響を与える要因と同じである。

人身売買された女性に対するインタビューを安全で倫理にかなったやり方で行うための１０の指針

1. 傷つけない
確固とした反対の証拠が出てくるまでは、危害が及ぶ可能性が極めて大きいかのように、女性ひとりひとり、そしてそれぞれの状況に真摯に向き合うこと。短期的あるいは長期的に女性の境遇に悪影響を及ぼすようなインタビューは行わない。

2. 自分のテーマを知り、リスクを査定する
インタビューを行う前に、人身売買にかかわるリスクやそれぞれの女性のおかれた境遇、ケースを知る。

3. 紹介情報を準備する- 果たすことができない約束はしない
適切な法的、健康面、シェルターそしてさまざまな社会的サポート、セキュリテイー･サービスについて、女性の母国語や現地語（もし異なる場合には）で、情報を提供すること。そして要請があれば、紹介する。

4. 適切な通訳、協力者を選択し、準備する
通訳や協力者などを雇うにあたってのリスクと利益を比較検討し、選別とトレーニングの適切な方法を構築する

5. 匿名性、機密性を守る
最初のコンタクトから、情報を公にするまでのインタビューのプロセス全体を通して、回答者のアイデンティティや話の機密性を守ること

6. インフォームド・コンセントを得る
各回答者がインタビューの内容や目的、情報の用途、質問に答えなくてもよい権利、どの時点でもインタビューを終了することのできる権利そして情報の使用方法も制限できる彼女の権利についてはっきり理解していることを確かめる

7. 女性が、自らの境遇、身の危険についてどう考えているか、耳を傾け、尊重する
女性たちはそれぞれ、異なった懸念をもっていること、そしてその懸念についてのとらえ方もまたそれぞれであることを認識する

8．　女性に、再び精神的痛手を与えない
感情を必要以上にかきたてる、乱すための質問はしない。女性の苦しみに応え、そして彼女自身の強さを浮かび上がらせること。

9．　緊急介入の準備をする
もし、差し迫って危険な状態にあると女性が訴える場合には、それに応える準備をする。

１０．集めた情報を有効に活用する
情報を、その女性本人の役に立つよう、関連政策の改善、開発を促進するよう、あるいは人身売買された女性一般のための良い政策や介入を促進するようなかたちで活用する。

1. 傷つけない
確固とした反対の証拠が出てくるまでは、危害が及ぶ可能性が極めて大きいかのように、女性ひとりひとり、そしてそれぞれの状況に真摯に向き合うこと。短期的あるいは長期的に女性の境遇に悪影響を及ぼすようなインタビューは行わない。

受け入れ国の拘置所に入っている女性が、NGO の人物と相談の上、彼女のトラフィッカーに対する反証をすることに同意した女性は、その後、拘置所のベッドで、彼女だけでなく、本国で待つ子どもたちの命も奪うという脅迫メモを見つけた。

1．1　インタビューを行うことを決定する

倫理指針の第一番目は、「傷つけない」ということである。人身売買にかかわる極めて大きなリスクを考えると、この基本原則の重要性は、誇張しても誇張しすぎることはない。

リスク

今現在トラフィッキングの状況にある女性、その状態を脱け出すプロセスにある女性あるいは既に脱け出した女性たちはみな、家族や友人がそうであるように、危害を受けやすく、弱い立場にある。女性ひとりひとりの身の危険や精神的トラウマの程度や期間は、いつも明らかであるとは限らない。インタビューをする側には、そうしたリスクがはっきり見えない場合がある。また、リスクが女性には明らかでない場合もあるかもしれない。

提言

もし、インタビューの申込、あるいはインタビュー自体が、女性の身の安全、精神面に害を及ぼしたり、危くしてしまう場合には、インタビューは行われるべきではない。

面会を求める前に、インタビュアーは、まず、どんなリスクがあるのか見究めなければならない。その中には、女性にアプローチすることが、他者(トラフィッカー、その他の女性たち、家族、コミュニテイー)からどう受けとられるか、インタビューに反対するだろう人物が、それを聞きつけてしまうかもしれないこと、あるいは、その女性が義務感から同意するのかどうか、などが含まれる。その出会いが、暴力、入管上の問題、賃金の逸失、職場の罰金あるいはこうした搾取的状況にありがちなその他のインチキなペナルテイーをつくりだしてしまわないかどうか、見究めることが重要である。

安全性を見究めるための質問例：

Q:「このインタビューを私と行うことについて、何か不安はありますか？」

Q:「私と話をすることで、何か困ることになりますか？例えば、あなたを人身売買した人物、家族、友人、あるいはあなたを今支援している人物との間に何か問題が生じることになりますか？」

Q:「以前に誰かプロのインタビュアーと話したことがありますか？それはどうでしたか？」

Q:「あなたの経験を話していただくのに、いい時間、いい場所ですか？もしそうでなければ、もっといい時期、場所がありますか？」

専門の経験豊かな現地組織や個人と協力することが重要である。

人身売買された女性にインタビューする前に、相談すべきグループおよび役立つ参考文献：

- 移民、難民、亡命希望者センター、 移民支援、ソーシャルワークあるいは移民や難民のための法律相談サービス；
- 移民のための雇用および労働の権利センター；
- 性労働者のグループや様様な支援（保健、諸権利、アウトリーチ･グループ、性労働者たちの組合）：
- 女性に対する暴力、女性の権利グループ、家庭内暴力やレイプ･センター、シェルター、クライシス・カウンセラー、心理学者；
- 人権グループ；
- 拷問や暴力の専門家；
- 取締官；
- さまざまなエスニック・グループ、文化センター、文献；
- 国際的な組織（例えば、国際移住機構；国連人権高等弁務官事務所；国際労働機関）；
- 移民、人身売買、労働や女性の権利について研究している学術機関。

女性の心理状態、そしてインタビューが及ぼすかもしれない影響の確認には、最大限の努力をはらわなければならない。つい最近トラフィッキング状況から逃れた女性の場合はとりわけ、感情面の危機におそわれていることが多い。インタビュー要請があったとき、 女性が自分の能力を完全にコントロールしている状態にあるかどうか、そしてインタビューの間、彼女がそのインタビューの状況に対するコントロールをもっていることが、決定的に重要である。

いったんコンタクトができれば、女性自身の抱えている懸念や恐れは、直ちに、系統だって議論されなければならない。（すなわち、たんに「インタビューをしていいですか？」と聞くだけでは不十分である。）

自らの安全性についての女性自身の評価こそが最優先される。しかし、インタビューに同意することで生じるさまざまな問題に、自分では気づかない場合もある。倫理規範は、たとえもし女性がインタビューに同意したとしても、インタビュアーが何かマイナスの影響がありうると予測する場合には、インタビューは行われるべきでないと求めている。

2．　自分のテーマを知り、リスクを査定する
インタビューを行う前に、人身売買にかかわるリスクやそれぞれの女性のおかれた境遇、ケースを知る。

2．1　リスクの及ぶ範囲を理解する

最初に女性に接触する時から、情報の一般公開までの、インタビュープロセスの各段階において、それぞれリスクがある。インタビューを行う前にそうしたリスクを知り、インタビューの全プロセスを通じて女性の幸せを守るための戦略を構築するための最も効果的な方法は、テーマ、現地事情をよく研究すること、そして最も大切なことは、現地の経験豊かな専門組織や個人の協力を仰ぐことである。

リスク

回答者に対する、雇用主、人身売買エージェント（斡旋組織）、ヒモ、取締官による報復

人身売買の実に多くの側面が、法的に罰すべきものであるため（例えば、移民法違反、不法就労、未成年、借金のかた、暴力、誘拐）、人身売買にかかわったものたちは、女性が外部の人物と接触することを望まない。女性をコントロールしている人々は、彼女を肉体的に（叩く、レイプ、監禁）脅したり、経済的なペナルテイー（「不服従」に対する罰金や借金をふやすなど）を科したりすることで、彼女が外部と接触しないようにさせるかもしれない。労働時間を延長したり、彼女から、例えば、休憩、睡眠、食事や娯楽といったような「特典」を奪ってしまうかもしれない。虐待やさまざまなペナルテイーは、違反の疑いのあるものを罰するだけでなく、その他の女性に対する警告として働くのである。

一般に、人身売買された女性は、トラフィッカーが現地の役人を買収するのを目にしている。ある被害者は、どのように彼女とトラフィッカーが、現地の警察、しかも警察車輌に乗せられて、国境を通って運ばれたと言っている。

女性がその状況、国を離れたからといって、彼女がもう復讐を免れたと決めつけるべきでない。ほとんどの人身売買において、エージェント（斡旋組織）は、女性本人、家庭、家族や友人についての情報をもっているし、また簡単に手に入れることができる。「何気ない」インタビューでさえ、彼女を危険にさらし、帰宅することや家にそのままとどまって暮すことができないようにすることもある。

アフリカのある国では、人身売買された女性が戻ってくると、国民への警告のため、人身売買防止策として、その顔をテレビやニュースで放映していた。その結果、映し出された被害者の多くは、家族やコミュニテイーの恥さらしとして、拒絶されていった。

回答者の家族や子どもに対する復讐

エージェント（斡旋組織）や雇い主が、家族、とりわけ子どもに対する脅しを使って、女性を操り、コントロールすることは、本当によくあることである。

中東のある国では、東欧出身の三人の女性が、働かされていたクラブから逃げれ、当局に助けを求めた。警察は、女性たちに、自分たちは助けることはできない、バスに乗る場所まで行って町を離れるようにと告げた。[illegible]バス停に到着すると[illegible]けたものトラフィッカーが待っていたのだ。

家族やコミュニテイーによる恥や拒絶、罰

女性たちは、家族のことを案じるだけでなく、もし、自分が売春婦として働いていたことや、性的虐待を受けていたことを知ったら、両親や夫などがどんな反応をするだろうかと心配している。両親、兄弟姉妹あるいは配偶者が、彼女の身に起ったことに対して、体罰を加えたり、追い出したりすることは、決して珍しいことではない。女性が家にいる時に、接近したり、インタビューを申しこんだりすることは、わからないよう離れた場所で行わないと、彼女の家族関係に取り返しのつかないダメージを引き起こすことがある。女性はまた、自分が予定した収入を稼がなかったこと、あるいは、借金を返済することなく、逃げ帰ってきたことを家族が気づき、怒りや叱責をかうのではないかと案じている。

外国の当局による確認

多くの女性は、書類をトラフィッカーに没収され、自分の法的地位についてよくわからず、不法に出入国している。逮捕や強制送還されることを恐れるため、彼女たちは、外部のものと話したがらない。人身売買された女性の多くにとって、母国の腐敗した当局での経験が、警察や他の土地の役人に対する不信感を育てることになっている。売春が違法とされる多くの国において、性産業で働く女性たちは、当然ながら、投獄されることを恐れている。こうした恐れは、当局が、彼らと共謀して、彼女たちを傷つけ、逮捕し、帰国できなくさせたり、あるいは意志に反して本国に送り返したりもできるというトラフィッカーの警告によって、さらに大きくなる。実際に、現地の役人がトラフィッカーと共謀しているところもある。そうした場所では、当局は、女性を逮捕することで、彼女たちの利益をうまく騙しとり、転売したり、女性をそこからまた人身売買したりすることがある。

本国当局による報復

女性の本国、時には村の役人が、人身売買に加担していることがある。腐敗した役人が彼女の本国にいることもあれば、受け入れ国の大使館や領事館で働いているかもしれない。

同僚、共同生活者やコミュニテイーの誰かによる裏切り

同じ状況にある女性、同じコミュニテイー出身の女性たちが、お互いを信頼しあっていると決めつけるのは、安全ではない。一緒に働き、生活している女性たちが強い友情で結ばれることもあるが、一方が恨みを抱き、他の女性に不利になるような情報をもらすことによって、経済的な恩恵を受け、雇用主、トラフィッカーなどからの尊敬や特権を勝ち得ようとすることがあるというのも確かである。同様に、シェルターに住む女性たちが、他の女性に対する悪意、根深い反目を抱き、もっている情報を、悪用する場合もある。トラフィッカーたちとまだ連絡をとりあっている女性たちが、別の女性に対する重大な情報を渡してしまう場合もある。帰国した女性たちでさえ、誰か部外者と話している様子を、トラフィッキングのネットワークとつながっている人物に見られてしまう危険がある。

年齢を偽る

未成年の女性が、しばしばトラフィッカーの指示のもとで、自分の年

齢を偽るのは、珍しいことではない。未成年者とのインタビューをするにあたっては、倫理的な側面にいっそう気を配る必要が生じてくるし、所によっては、インタビュアーの側に法律上の義務が課せられる場合もある。インタビュアーは、未成年者の虐待を報告するにあたり、現地の法的要項をよく理解しておく必要がある。未成年者を支援する経験豊かな人物やサービスを確認しておくのもいいだろう。

雇用主や自分のヒモであるボーイフレンドやネットワークの中の人物に対する忠義や依存

エージェント（斡旋組織）、ボーイフレンド、夫あるいは家族の一員かもしれない雇用主との関係に忠義、忠誠を尽くそうとする女性もいる。加害者による抑圧の主要な要素である、組織的な孤立、依存関係というものを理解しない限り、部外者にとっては、こうした感情は不可解かもしれない。多くの場合、暴力や残酷な行為は、優しさや寛容の身ぶりと交互にいれかわる。こうした関係は、わかりにくく、ひとを混乱させるものである。女性は、世話をしてもらっていると感じるかもしれない。そして、力の不均衡のため、自分の将来、生存は、自分を虐待し、搾取しているものたちの手に全てあると信じてしまうのである。

１５歳のルーマニアの少女は、イタリア語の偽造書類所持で入れられていたアルバニアの拘置所から人身売買された。ヒモである恋人のためにしばらく働いた後、彼女は逃げ出し、町の別の場所にあるサウナで働き始めた。賞金が彼女にかけられた。アルバニア人のボーイフレンドのポイントを稼ぐため、新しい職場の女性の同僚が、彼女の居所を明かしてしまう。ルーマニアの少女は、その後、真っ昼間に、同僚たちの目の前で誘拐された。

２．２　インタビュープロセスの各段階：リスクと提言

インタビュープロセスの各段階で、回答者にリスクが生じることがある。そうしたリスクを認識し、見極め、そして、適切な安全対策がとられるべきである。

第１段階：最初の接触をする

リスク

人身売買の状況にある女性にただアプローチしていろいろ尋ねること、誰か特定の女性に話をしてくれるよう頼むことは、彼女の忠義心や意図に対する疑念を引き起こし、その女性を危険にさらすことになるかもしれない。女性たちが、監視されていないことは稀である。ひとりでいるように見えても、大抵の場合、見張られている（例えば、ヒモや雇用主が、目の届く範囲、話が聞こえる距離にいる。または、

隠しカメラがおいてある、など)。

同様に、村に入って、一人の女性を特定すること、あるいは女性や、移住したか、人身売買された疑いのある女性の家族を尋ねることで、その女性や家族に問題を引き起こすこともある。

提言

・人身売買された女性と接触する最も安全な方法は、彼女がその状況からはっきりと脱け出した時に、話しかけることである。最も効果的で確実なコミュニケーション手段は、各サービスグループ、シェルターや保護施設といった彼女も知っていて信頼を置いている現地の組織を通すことだろう。

・彼女とトラフィッカーとの接触とインタビューとの時間的間隔が長ければ長いほど、彼女が自分の経験の詳細を話しても安全だと感じ、また実際にそうである可能性が高くなる。

- もし、彼女が明らかにエージェント（斡旋組織）や雇用主に対する愛着を抱いている時に接触する必要がある場合には、彼女が信頼する現地の組織（例えば、ヘルス･アウトリーチやソーシャル・サービス）を確認することが最善の方法である。もし、信頼されている現地グループを通しての接触が不可能であれば、余分に時間をとって、十分彼女の行動パターン(例えば、彼女に誰がいつもついているか、誰が彼女を見張っているか、など)を観察し、接触を試みることのリスクを見究めることが肝要である。

性売買が行われていても無視されたり、容認されていたり、警察や役人などが組織ぐるみで買収されているような国々においては、売春宿の主人、ヒモやその他の管理者が、インタビューの実施にも反対しないということは、注目すべきである。これは、女性をコントロールしているものたちが、インタビューを受けることで、何らかの利益、たとえば、コンドームの無料支給、健康に関する情報、医薬品、無料診療などが提供されそうだと気づいた場合に、その傾向がよく見られる。人身売買されたり、借金のかたにされた女性とのインタビューが日常的で安全に行われる国もある。あるいは、たんに「雇用主」が、女性たちがどうせ本当のことは言わないだろうという自信から、インタビ

ューを許可する場合もあるかもしれない。こうした状況においてインタビューを実施することについて、過剰に楽天的になる前に、質問を投げかける部外者の存在が、どのように受けとめられるかをしっかりと理解することが不可欠である。

女性を暴露の危険にさらすことのないよう、インタビュアーは、必要に応じて、その内容が、例えば、「健康」というようなもっと中立的な内容であると伝えるのもいいだろう。それによって、女性は、安全に、会話の内容を他者に説明することができる。回答者とインタビュアーだけになれば、同意手続（「6. インフォームド・コンセントを得る」を参照）の一部として、本来のテーマについてもっと詳細な情報が提供されなければならない。

拘留中の女性にインタビューを求める際、彼女が当局、他の囚人あるいはトラフィッカーからの復讐を受けることはないであろうと断定してはならない。たとえもし、インタビューを人目につかない、まわりと隔絶した場所で行うことが可能だとしても、もともと拘留中であることから、女性が落ち着かず、不安を覚えることがよくあり、後から、嫌がらせをうけたり、何を言ったか明らかにするよう強要されることがあるかもしれないという弱点がある。

第2段階：インタビューの日時と場所を確認する

リスク

人身売買の状況にある女性が、部外者と会うという時には、とりわけ、見張られたり、尾行されたり、立ち聞きされることがあるかもしれない。ビデオカメラが女性の職場や住まいに設置されている場合もある。恒常的に監視されていない場合でも、女性は、真実を話したがらないことが多い。自分たちが話すことが知れ、自分自身や家族にとって不利に使われるかもしれないと感じるからである。

同様に、シェルターや自宅にいる女性は、共同生活者や他の家族、隣人や他人が、センシティブで「不名誉な」情報を耳にしてしまうかもしれないという極めて妥当な不安を抱くかもしれない。

あるインタビュアーがクラブに出かけ、オーナーに会った。オーナーは、自分のクラブで働いている女性はみんな自分の意志で働いており、よく稼いでいると説明した。彼は、インタビューされる女性を選び、話が聞こえる近くに腰掛けた。はたして、女性たちの話はどれも彼の主張を裏付けるものだった。

最近、西ヨーロッパのクラブにやってきた若い女性は、おびえ、惨めだった。彼女は警察に助けを求め、警察がその売春宿を強制捜査、そこで働いていた女性を全員逮捕した。警察署に着くまでの道中、バンの中で、人身売買で連れてこられ同じクラブで働いていたほかの女性たちは、この若い女性が彼女たちの借金返済のチャンスを台無しにしたことに激怒、彼女を叩いたり、引っかいたりした。

提言

インタビューは、安全で、完全にプライバシーの確保された環境の中で行われるべきである。NGO や社会的支援サービスが、最も安全な選択肢であることが多い。インタビューは、人々がそばを通ったり、「立ち寄ったり」するかもしれない場所、あるいはさまざまな邪魔が入って、回答者を落ち着かず、不安になるような場所では行うべきでない。子どものいる前でのインタビューは、苦しみやトラウマを生んでしまうかもしれない。そして結果的に、他人にしている話をただ繰り返すだけになってしまうかもしれない。

インタビューの前、そしてインタビューの間を通じて、女性が、もっと安全で、都合のいい時間に、いつでも自由にスケジュール変更できる状態であるべきである。

きついスケジュールは実際的とも現実的とも言えず、インタビュアーが、リスクを冒さなければならない状況に追い込まれることもある。同様に、インタビューが長すぎたり、感情的に疲れさせるものであったりしてはならない。女性がリラックスすればするほど、貴重な情報を話してくれる可能性が高くなる。インタビューの始めに、女性がいつその場を離れなければならないか、どれだけ時間的に余裕があるのか、はっきりさせておくのはいいアイデアだろう。雇用主やトラフィッカーの管理下にある女性たちは、別の外出先を伝えている可能性があり、帰りが遅れることで問題が生じるかもしれない。

第3段階：インタビューを行う

警察官にレイプされた人
卸売買された女性は、ド
アが開けっ放しの警察署
で、人々が彼の横を通り
過ぎる中、口述させられ
た。インタビューの間ず
っと、彼女は、自分をレ
イプした[illegible]空に分かっ
てしまう[illegible]を恐れて
いた。

先入観を捨て、聴こうとする心構えで出かける

リスク

女性の経験、身に起ったことに対しての彼女の反応、または彼女の人柄や性格について何らかの先入観や感情をもってアプローチするようなインタビュアーは、重要な情報を聞き逃したり、女性の経験のもつ独特の性格、本質を見落としたりしてしまうことがある。

提言

質問事項を事前に準備しておくことが重要である一方で、女性の経験の最も正確な描写を引き出すことのできるのは、何かにとらわれたり

せず、柔軟で共感的な態度で接するインタビュアーである。これは、インタビュアーの偏見のない心、聴き方、通訳のスキルにかかっている。たとえば、インタビュアーは、理解や関心を示すべきである一方で、哀れみや同情といった表情、表現をすることは、適切とはいえず、逆に嫌がられる。多くの女性は、自分が被害者として扱われることを望んでいないからである。

もしインタビューの状況が安全ではなくなったり、プライバシーが妨害されたり、あるいは、女性や通訳が、何か問題があるというような合図をした場合には、いつでも会話のトピックを変更したり、面会を突然中断したり、時には中止する準備をしておくこと。

女性が不安を感じた時を認識する

リスク

インタビューの間に、状況が突然変化することがある。インタビューの最中に、何があったのか、過去のできごとが突然変わってしまうことがある。このような変化は、女性に、肉体的、精神的なリスクをもたらすことがある。
たとえもし、インタビューのために用意された当初の状況が条件にかなったものであったとしても、回答者が、インタビューの最中に急に不安になったり、落ち着かなくなることがある。こうしたサインを見逃さないことが重要である。インタビューを続けることが危険になっているかもしれない。女性の不安げな様子は、率直に答えたくないか、あるいはできないかを意味することが多いからである。

インタビューの性質を変えてしまうかもしれない出来事やトピック：

- 誰かが部屋に入ってきたり、そばを通りすぎたりする：
- 具体的な名前や住所、彼女の家族や年齢を尋ねるなど、インタビュアーの意図を彼女が疑ったり、神経質になったりするような質問；あるいは
- インタビュアーが自信を喪失したり、不安な表情を見せたりする。

提言

回答者が不安を感じ始めたり、もう話をやめたいと思っていないかどうか、そうしたサインを見落とさないようにすることが重要である。もし、女性のそぶり、答え方に、明らかな変化が見られる場合には、インタビューの最中に、何かのきっかけがあって、彼女の振る舞いや、

答えようとする意志に変化を生じさせているという可能性を検討する。

もしインタビューの状況が安全ではなくなったり、プライバシーが妨害されたり、あるいは、女性や通訳が、何か問題があるという合図をした場合には、会話のトピックをいつでも変更したり、面会を突然中断、中止できる準備をしておくこと。

もし、アンケートやインタビュー指針が使われている場合には、インタビュアーは、ちょっと話の矛先を変えたり、別の話題に移ったりすべきだろう。例えば、健康、文化あるいはジェンダーの問題についてなど、必要に応じて、違うトピックを持ち出すことができるだろう。直ちに、議論を呼ばない、さしさわりのない話題に切りかえることができる。また、回答者も、この安全作戦や陽動質問のテーマについて、インタビューの最初にあらかじめ知らされておく必要がある。そうすることで、彼女は、異なる質問に対しても答えることができるし、不安を感じたときにはいつでも、話題を変更することができる。

第4段階：インタビューを終了する

積極的な方向でインタビューを終える

リスク

人身売買は、さまざまな感情面、心理的な反応を引き起こすことがある。自分の経験を話してしまったことで、解放され、気持ちが楽になる女性もいる一方で、自分自身、現在の状況、将来について、一層暗く惨めな気持ちになる女性たちもいることだろう。インタビューの後、女性が自らを恥じ、絶望的な気持ちにならないようにすることが重要である。

締めくくりの言葉の例：
「時間をとって、あなたの経験を勇気をもって話してくださって本当にありがとうございます。これほどひどい虐待を生き抜いたあなたは、疑いもなく、強くて、勇気のある女性です。」

提言

可能ならいつでも、インタビューは、ポジテイブな方向でインタビューを終えるべきである。彼女自身の話から具体的な例を使うなどして、そうした困難な状況に、彼女がいかによく対応したかを、インタビュアーが女性自身にもう一度思い起こさせるのもいいだろう。また、彼女が語ってくれたことで、その情報が、他の女性たちを助けるために使われることも伝えること。

まだ専門家の保護下にない回答者や、さらに支援の必要な回答者に対しては、インタビュアーは、紹介情報を提供し（下記3を参照）、彼女が必要とするときには、こうしたサービスが存在することを知らせるべきである。

3．紹介情報を準備する： 果たすことができない約束はしない
適切な法的、健康面、シェルターそしてさまざまな社会的サポート、セキュリテイー･サービスについて、女性の母国語や現地語（もし異なる場合には）で、情報を提供すること。そして要請があれば、紹介する。

3．1　利用可能な資源と支援サービスを確認する

リスク

人身売買された女性が、自分の健康や安全に役立つような情報にアクセスできる可能性は極めて低い。著しく不利な状況、恵まれない境遇におかれた女性と面会する場合には、インタビュアーは、必要な情報を収集し、それを彼女に提供する責任がある。インタビューの場は、女性が情報を得る絶好の機会である。これは、回答者の命を救う支援になるかもしれず、インタビュアーの重要な責任である。

提言

必要な紹介情報が手元に準備できていること。支援サービスの紹介情報を提供することで、インタビュアーは、命にかかわるような極めて重要な援助を提供しているかもしれないのである。同時に、回答者のインタビュアーに対する信頼度や確信がさらに高まることになる。

彼女に起った出来事は、彼女のせいではなく、責められるべきものは何もないということを請合うことによって、積極的に助けを求めるように励ますことができる。

情報は、正確に、はっきりと伝えること。インタビュアーは、女性がちゃんと理解したかどうか確認し、ほかに質問がないかどうか尋ねなくてはならない。安全であれば、必要に応じて、情報を文書にして提供する。

人身売買された女性にとって役に立つと思われる：

- 人身売買された女性専門に活動している現地組織、時間と連絡方法
- 女性それぞれの本国で、人身売買された女性専門に活動している組織
- 無料医療サービス（可能な場合、一般診療、リプロダクティブ・ヘルス、病院や精神的なケア）
- 住まいその他の社会サービスに関するアドバイス
- 法律扶助・出入国にかかるアドバイス
- 大使館
- シェルター・サービス
- 現地の教会・コミュニテイー支援組織
- 語学トレーニングセンター
- 女性の本国で活動しているNGO

3．2　紹介リストにある組織と連絡、周知する

リスク

人身売買された女性に対して、すすんで必要な情報を提供し、援助の手を差し伸べようとする組織、またそれができる組織は多くない。

提言

いかなる組織であっても、紹介リストに含める前に、インタビュアーはまず、その組織のサービスが合法で、適切なものであるかどうかを確認しなければならない。インタビューを行うに先立って、インタビュアーは、サービス提供の可能性のある機関、人物と連絡をとり、人身売買された女性それぞれのニーズに本当に見合う支援を、彼らが提供することができるのかどうか確認すべきである。

インタビュアーは、その組織に、必要な連絡先等を人身売買された女性に伝えるかもしれないことを知らせること。

専門の支援サービスが得られない場所では、女性のさまざまなニーズに応じて妥当なサービスを提供できる、関係機関や適切な組織を数多く知っていることが必要である。そうした組織には、人身売買という問題の本質、またどんな援助を求める可能性があるかについて、説明しておくことが必要になるかもしれない。

3．3　紹介情報を提供する時には、慎重にする

リスク

もし紹介情報が女性の所持品の中に見つかると、ヒモやエージェント（斡旋組織）あるいは雇用主からの危険が彼女に及ぶかもしれない。また家庭では、他の家族との間に問題がおこることになるかもしれない。

提言

紹介機関の連絡先を小さなカードに書いておくと役に立つ。インタビューの後、女性がそのカードをとり、将来必要と感じたときに使えるよう、隠しもっておくことができる。情報は女性の母国語と現地語で書いておくこと。そうすれば、女性がサービス機関に連絡する際、現

地の誰かに助けてもらうことができる。また、できるだけ、幅広く、さまざまなサービスを含めること。カードには、住所と番号だけでもよい。特に何のためであるとか、必ずしも記載する必要はない。こうしたカードや情報を受けとることを望まない女性もいるかもしれない。

4.　適切な通訳、協力者を選択し、準備する
通訳や協力者などを雇うにあたってのリスクと利益を比較検討し、選別とトレーニングの適切な方法を構築する

4．1　通訳その他と協力する場合のリスクと恩恵を見きわめる

リスク

インタビューそのもの、あるいは機密情報の処理に、通訳や雇い入れたインタビュアーなど他人を巻き込むことは、もしその人選が慎重に行われない場合、リスクが生じることになる。彼らがいかなる人身売買エージェント（斡旋組織）とも一切かかわりがないことを確かめること、かつ彼らがこうした微妙な内容を含む問題に取組む準備が十分出来ているかどうか判断することが必要である。

もし、協力者が、守秘義務違反に関連する危険性を理解しなかったり、いい加減なインタビューをしたり、安全に十分配慮しない場合は、重大な懸念が生じてしまう。

気配りのある質問、返答をすることの重要性を理解しない通訳や協力者では、詳細で正直な回答を引き出せないかもしれないし、また回答者である女性を不快にさせたり、侮辱することになるかもしれない。

女性と同じ言語を話す通訳やインタビュアーの場合、回答者はもっと安心し、信頼を築きやすいかもしれない。しかし、逆の効果をもたらすこともある。すなわち、女性は、自分と同じコミュニテイーや同じ文化的背景をもった人物を信用しないかもしれないし、またそうした人物の前で自分の体験を語ることを恥と感じるかもしれない。同じ文化的背景、同じ道徳律を植えつけられて育った人物の前にして、まさにその文化で禁止されている不名誉な話題（

紹介先機関について知っておくべきこと

- それぞれのサポート形態と可能なサポート
- 提供可能なサービスと限界（たとえば、女性の法的地位、支払能力によって）
- 虐待、未成年の虐待、または不法移住労働者のケースについて法的報告義務があるか
- 移民、性労働者、その他社会の周辺で生きる人々に対し協力的であるかどうか。
- さまざまな言語、通訳のニーズに対応できるかどうか
- 過去に人身売買された女性を扱ったことのない場合、どんな情報あるいは感作が必要か、必要とするか。

アメリカで起ったケースだが、当局が、ひとりの少女の疑わしい自殺について、人身売買された女性数人にインタビューする際、知らずにトラフィッカーを使ってしまった。その男は、彼女たちの叔父であると名乗った。数ヵ月後、匿名情報があり、警察は、別の中立的な通訳を使って、同じ女性たちにインタビューを行った。返ってきた答えは、前回とは全く異なるものだった。

例えば、性労働、性的虐待）について語ることはよけい恥ずかしいと感じる女性もいる。さらに、思慮にかける通訳や協力者が、女性の回答を、面白い地元の噂にしてしまうかもしれない。本国であれ、受け入れ国であれ、地元の噂というものは、あっという間に、猛然と広まってしまうものである。通訳の経歴や仲間、コンタクトが、きちんと確認できないと、情報がとんでもない場所に漏れてしまわないという保証もない。

人身売買された女性とのインタビューには、彼女の安全、そして情緒面の健康という点からみた時間的制約があることが多い。通訳を交えたインタビューには、時間がかかるが、インタビュー時間を延ばすことは、女性を危険にさらすことになるかもしれないし、つらい経験をまた経験させることになるかもしれない。

提言

- 回答者から別の指示がない限り、暴力を受けた女性の問題に精通している現地の組織から派遣された通訳や人物、彼女の地元のコミュニテイー出身ではない人物の協力を仰ぐ。

- インタビューを受ける間、助けてくれるような信頼できる友人や同僚がいないかどうか、回答者にひそかにたずねる。選ばれた人物が、インタビューの目的を理解し、援助することに自由意志で同意していることを確認する。

- 身元の知れない通訳は受け入れないこと。もしかしたら、何らかのかたちで人身売買にかかわっているかもしれないし、インタビューに加わることで何か得するものがあるのかもしれない。

- もし可能であれば、「文化的メディエーター」あるいはインタビュアーと回答者との間の環境のギャップを埋めてくれるような人物の存在は、複雑なやりとりを進めていくうえで、非常に貴重である。

- 状況をよく判断する。上にあげたさまざまな理由から、十分な信頼のおけない通訳や人物の協力しか仰げないような場合には、インタビューを全く行わないほうがいいこともある。

- 断定的で批判的だったり、女性が明らかにした情報によってショックを受けたり、感情を害してしまうような通訳や個人なら、使わな

いこと。通訳そして協力者は、人身売買と言う問題、そしてそれにしばしば伴うさまざまな肉体的、性的虐待について十分な説明を受けている必要がある。

・ インタビューの後、通訳や協力者に感想をきく時間を設けること。インタビューによって、動揺し、悪影響を受けている可能性があるからである。

4．2　男性通訳あるいはインタビュアーの雇用に関連した問題点を考慮する

リスク

性労働に従事する女性とのインタビューなど、場合によっては、男性通訳のほうが、接近するのが簡単で、目立たないかもしれない。しかし、人身売買を含む多くのケースにおいて、回答者は、男性によって裏切られ、肉体的、性的虐待を受けている（家族、斡旋組織、雇用主、軍隊など）。その結果、男性を信頼できず、男性に自分の体験をうちあけることに居心地の悪さを感じたり、当惑したりすることが多い。

提言

売春をしている女性に、職場の外で安全に連絡をとることが不可能である場合には、男性がまず、最初の接触を試みることが有効な場合もある。ただし、その場合には、自分が何故そこにいるのか、その目的をただちに、そして十分説明しなければならない。

通訳を介して、外国語でインタビューを行っていた不慣れなインタビュアーが、その最中にクスクス笑いだした。それは悪意からではなく、緊張からだったのだが、この反応が、インタビューを受けていた若い女性を苦しめることになる。
後で、インタビュアーが自分の話を笑っていると思ったのだ。

別の女性からの虐待、搾取を受けたことのある人身売買された女性の場合、女性は、男性よりも批判的で自分を非難しがちだと考え、男性に話をすることを好む場合もある。可能ならいつであれ、回答者にまず意見をきくこと。

4．3　協力者やインタビュアーの安全、心の安寧を考慮する

リスク

人身売買された女性とのインタビューを行うことで、インタビュアーがトラフィッキング斡旋組織や回答者の仕事や社会的ネットワークに関係した何者かからの危害をうける危険にさらされることもある。

人身売買された女性とのインタビューは、インタビュアーにとっても大きな感情的な傷になることがある。感情的疲労や不安感は、虐待や数々のトラウマという話を聞いた人々に、共通してみられる反応である。インタビュアーは、このような苦悩、悲嘆といった感情に対する心の準備ができていないかもしれないし、そうした心の動揺に対処するためのサポートが必要になるかもしれない。

インタビュアーの中には、こうした話を聞くことで、過去の虐待やそれを受けた時の感情がよみがえってくるものがいる。つらい思いをするだけでなく、中立的な立場で、十分なインタビューを最後まで行うことができなくなるかもしれない。

インタビュアー自身が過去虐待や差別を受けたことがある場合、その程度などによって、回答者の話によって受ける影響も変わってくる。話を聞くことで、過去の虐待やそれを受けた時の感情がよみがえってくることがある。つらい思いをするだけでなく、中立的な立場で、十分なインタビューを最後まで行うことができなくなるかもしれない。

インタビュアーは、無力感に襲われるかもしれない。あるいは逆に、「救済者」となりたいと願うかもしれない。前者の場合、この女性の抱えている問題は余りにも大き過ぎて、自分の手には負えないから、何の援助も差し伸べようとしないかもしれない。それに対して後者の場合、インタビュアーは、現実的とはいえない約束をしてしまうことがある。

提言

- インタビューの前、最中のいつであっても、もし、インタビュアーや回答者が、選んだ場所が安全ではないと感じたら、インタビューは行うべきではない。安全な場所が確保されるまで中止すべきである。もし、インタビューを改めて行うことが可能なら、最初とは違う場所を選ぶほうがよいことが多い。

- もし、リスクの高い場所で、単独インタビューを行う場合には、インタビュアーは、外部の連絡窓口となっている人物が、自分の居所、インタビューの開始、終了予定時刻を知っていることを確認すること。インタビューの場所から安全に脱け出したら、その外部の連絡窓口となっている人物に連絡するよう、前もって決めておくこと。

携帯電話が利用できる場合には、インタビュアーが携行するのがよい。

・ もし、女性がとてもセンシテイブな内容の、インタビュアーにも危険が及ぶような情報（例えば、加害者についての詳細情報、役人や警察官の腐敗など）を持っている場合には、インタビュアーは、女性がそれを伝えようとするのを上手に思いとどまらせること。と同時に、この情報を提供すべき適切な人物あるいは機関を示唆すること。

・ インタビュアーと通訳は、事前に、以下の項目についての特別な訓練や予備知識を与えられるべきである：

— 女性のトラフィッキング（人身売買）のダイナミクス、力関係；
— リスクと安全性及び緊急時の手順；
— 身体的、性的及び精神的虐待、抑圧および拷問などの問題についての基本知識、イントロダクション；
— 性、民族による差別、不平等についての基本認識；
— 性労働、売春、家事、工場労働、農業労働など、インタビューのテーマである労働部門に関連した問題や概念；
— テーマに関連する、現地での専門用語。

・ 一般的に「被害者を責める」ような姿勢は、概して、その文化の一部であることが多い。そして、回答の受けとりかた、解釈の仕方だけでなく、回答者から十分話を引き出すインタビュアーの能力にも影響を与えることがある。

その結果、インタビュアーは、以下のような女性に対して自分自身が抱いている偏見、恐れや固定概念と対峙しなければならない：
— 移民；
— 性的虐待を受けたもの：
— 性労働者、あるいはその他周辺的労働形態（例えば、家事労働、工場労働あるいは農業労働）：
— 貧しい、あるいは社会的経済的に不利な立場にある。

・ インタビュアーは、人身売買された女性を援助する自分の能力そして限界を認識しなければならない。

ある映画監督が、何人かの人身売買された女性の証言を用いて、女性のトラフィッキング（人身売買）についてのドキュメンタリーを制作。監督は当初、その映画を海外でのみ上映するつもりだった。しかし、ほどなく、国内の[illegible]で放映され、[illegible]号の朝もずっかり[illegible]ところとなっています。

5．匿名性、機密性を守る

最初のコンタクトから、情報を公にするまでのインタビューのプロセス全体を通して、回答者のアイデンティティや話の機密性を守ること

女性のトラフィッキングを扱ったドキュメンタリーフィルムで、女性の顔が、十分に隠されておらず、簡単に身元がわかってしまった。女性のひとりは、それまで、海外での悪夢のような数ヶ月を両親や夫にうまく隠しとおしていたのだが…。

5．1．機密性を守る

リスク

機密性を守ることは、女性の安全及び彼女が提供する情報の質を保証する上で不可欠である。

提言

- 女性の身元を守るための予防策がとられていること、そして、履歴は極秘にされることを説明してから、インタビューを始める。これらの点が適切だと思うかどうか、女性に確認すること。

- 名まえを名乗る必要のないこと（偽名を名乗ってもよい）、また、出生地や村、本当の国籍を言う必要がないことを女性に告げなければならない。もし、こうしたデータを集める必要がある場合（すなわち、法律関連のインタビュー）には、その情報を、インタビューノートに直接書かないほうがよい。何らかの符号を使って、回答者との関連付けをすること。また、ファイルノートとは別の場所に保管すること。ファイル情報は、本人がきちんと事情を了解した上での明確な同意なしには、決して他人（たとえば、家族、友人、警察、入管）に見せてはならない。

- 個々のインタビューの内容は、同じ守秘義務を共有するもの（同僚、医療関係者）の間でのみ、かつ、そうすることが必要であり、また女性の同意が得られたときにのみ、話し合わせるべきである。インタビューの内容は、決して、公の場、とりわけ他人に内容が聞かれる恐れのある場所（例えば、タクシーの中、切符取扱店など。そこで働く人物が、人身売買と何らかのかかわりがあるかもしれないからである）では話し合ってはならない。

- ある回答者の話を、その人物の身元がわかるようなかたちで、別の回答者とのインタビューとの中で決して話題にのせてはならない。同様な状況で、他の女性たちについての一般的な話をすることが役

インフォームド・コンセントを求めるときの例

私たちは、健康サービスを提供するためのよりよい方法を探ろうと、<組織名>のために、人身売買された女性の健康についてのリサーチをおこなっています。私たちは、[一般的な話題] について話し合い、[たずねる予定の中心主題、センシティブな情報も含まれる]についていくつか質問をしたいと思っています。

あなたの名前はうかがいません。私に話してくださったことは全て極秘情報として扱われます。あなたの身元がわかるような履歴などは一切、公開されることはありません。あなたの名まえ、故郷の町や村の名まえ、トラフィッカーの名まえ、家族についての具体的な情報を用いることはありません。また、これが正しい答え、間違った答えというのはありません。質問の中には、つらい思い出がよみがえらせるようなものもあるかもしれません。そんな時には、ゆっくり時間をかけて下さっていいですし、あるいは答えられなくてもいいですよ。
あなたが自分の経験を語ってくださることで、同じような経験をした女性、健康面のニーズのある女性を支援するために使われます。

に立つこともあるが、個人的な、身元がわかってしまうような情報の境界線を越えてはならない。

・ テープに録音した場合、名まえは使わず、識別コードを使用する。テープは、鍵のかかるファイルに保管し、アクセスできるのは、一部の身元を確認できる関係者のみとする。また書き写した後は、録音を消去すること。

・ インタビューの情報を一般に発表したり、公表する場合には、身元がわからないよう、回答者の履歴は、全面的に変更しなければならない。例えば、発表に際して、女性の名まえ、出身地、職場、家族、友人、同僚の名前を含んではならない。送られた町や国の名前も変えてよい。

・ 写真や映像に記録を残す際には、その影響が大きく、また長期にわたるため、目だけでなく、顔全体を隠さなければならない。またその他に、明らかに特定の女性を示唆するような特徴（たとえば、傷跡、入墨など）も除かれなければならない。さらに、写真や映像は、女性が、事情を周知し、それらがどのように使用されるか、どこで配信されるか、十分理解し、なおかつ、女性からの許可書がある場合のみに限られる。また、保護施設や隠れ家あるいは人身売買された女性の支援組織や個人が特定されるようなかたちで、写真を撮ってはならない。

6．インフォームド・コンセントを得る
各回答者がインタビューの内容や目的、情報の用途、質問に答えなくてもよい権利、どの時点でもインタビューを終了することのできる権利そして情報の使用方法も制限できる彼女の権利についてはっきり理解していることを確かめる

6．1　同意を求める適切な方法

リスク

外部の人間に対する女性のごく当然の疑念のため、また多くの場合、言葉や、文化、社会経済的相違のため、完全なかたちでインフォームド・コンセントを得ることは、なかなか難題である。多くの女性は、とりわけ農村地域や低開発地方出身である場合、インタビューを受け

ることで生じる潜在的な影響をにわかには理解できず（とりわけ、メディアが関連する場合）、十分考えないまま、同意を与えてしまうかもしれない。

提言

・ インタビューは、身の危険、感情的な苦痛を生じさせる可能性があり、行われてしまうと撤回することができないため、インタビュアーが下記の点について、明確に説明することが極めて重要である：

— インタビューの理由；
— 話し合われるべき主題；
— インタビューを受けることに伴う潜在的なリスクと恩恵；
— 個人的で、恐らくは、動揺するような内容の質問がなされること。

もし、女性が、インタビュアーの意向および質問の目的を十分理解していれば、自分の提供する情報が自分の不利になるように使われ、自分を傷つけることになるのではないかという疑いは、あまり抱かないだろう。

・ インタビューの最初の要請は、たとえば、彼女が信頼する人物、そして彼女にインタビューにともなうさまざまなプラス、マイナスの影響を説明できる、互いの間にいい関係を育てているサービス機関や人物から行われることが最善であろう（この最初の要請は、女性にまず安全に接触するためのひとつの手段であって、正式なインタビュー要請ではない。正式に同意を得るためのプロセスは、インタビューに先立って、インタビュアー自身によって必ず行われなければならない。トラフィッキングの力関係（ダイナミクス）や「ボーイフレンド」の役割を考えると、一般的に、彼らは、仲介者としては妥当な選択とはいえない。クラブや売春宿の経営者に対して要請することは、女性本人をどうしようもない状況に追いやり、疑惑をかき立てることになるかもしれない。また女性から積極的な回答があることも期待できないだろう。同様に、警察や出入国管理事務所を通して女性たちと接触することも、女性を神経質にさせることが多いだろうし、たとえ、その回答が偽

インフォームド・コンセントを求めるときの例（前頁続き）

私たちは、たとえば＜リスクについて事前に話し合ったときにあげたさまざまなリスクとプラス面＞など、どんなリスクがあり、どんな利益があるかについて、また＜事前の話し合いのときにあげた、リスクを軽減するためのアイデア＞のように、リスクをできるだけ最小のものにする方法についても話し合いました。

もし望まないなら、このインタビューに応じなくてもいいですよ。また、インタビューに同意されたとしても、いつでもインタビューを中止することができます。またもしある質問に答えたくなければ、あるいは私にその質問をしてほしくないという場合には、遠慮なく私をとめてください。インタビューにはだいたい３０分かかります。

インタビューに応じてくださいますか？

お話いただくのに、いい時間、いい場所ですか？

りでないとしても、用心深い答えかたになるだろう。(拘留中の女性とのインタビューは、また別の深刻な問題をもたらすが、ここでは触れないこととする)。

- インタビューのテーマと目的、そして彼女のこたえがどのように使われるか、明確なステートメントを準備する。そして口頭でひとつひとつ読み上げながら、ゆっくり説明し、彼女がひとつひとつの点について質問し、疑問点があれば、明らかにすることができるようにする。

- さまざまなリスクについても系統だって話し合うこと(「1．1インタビューを行うことを決定する」の右枠内:「安全性を見究めるための質問例」を参照)。どんな恩恵があるか(たとえば、自らの経験を話す機会、他の女性たちを助けるために自分の問題やニーズについて語ること)、そして彼女がインタビューから何を期待するか(たとえば、援助や支払)について話し合うこと。

- 回答者の母国語(第1言語)が、インタビューのそれと違う場合には、与えられた同意が、本当に十分な情報に基づいてなされたものかどうか、たとえば、彼女の母国語で書かれた情報シートを準備するなど、いろいろな形で念をいれて確認することが必要となる。ただし、そうしたシートは彼女の元に残してはならない、他人が見つけてしまうかもしれないからである。

- インタビューの支払いについての話し合いは、むつかしい。インタビュー料は、収集された情報の信憑性についても疑いを投げかけさせることにもなりかねない。とりわけ、もし、その提示金額が大きい場合には、なおさらである。その一方で、インタビューにかかった時間、賃金の損失、交通費や子どものケアなどその他のコストに対して、女性に補償してあげることも大切である。謝礼など、出所のわからないお金が雇用主、ヒモあるいはトラフィッカーにもし見つかってしまうと、罰を受ける、危害が及ぶなどの可能性もあるので、どういう形で補償を行うのが最善であるか、女性と話し合うことが重要である。現金を受けとっても安全かどうか、あるいは何か品物(たとえば、衛生用品、石けん、シャンプー、コンドーム、食べ物、衣服など)の形での補償のほうがいいか、あるいは、お金を彼女の家族に送るか、信頼できる筋に渡

すのがいいかどうかたずねることがいいだろう。女性にアクセスさせてくれたということでヒモ、女主人、売春やどの経営者、警察などへの支払いをすることは、倫理的にみても問題であり、女性にとっても困った問題を引き起こすかもしれない。また、インタビュアーの意図についての疑念、懸念も生まれやすく、すすめられない。

援助の選択肢は、中立的な方法で説明されなければならない。そして、インタビュアーは、援助の程度や見込みについて誇張して話してはならない。

・ 可能なら（すなわち、安全が保証され、回答者が望むなら）、フィードバック（たとえば、新聞記事、調査結果、プログラムの小冊子）を、後日改めて会っても安全だろうと回答者が感じる場合には、本人に提供できるようにすること。

7．女性が、自らの境遇、身の危険についてどう考えているか、耳を傾け、尊重する。

女性たちはそれぞれ、異なった懸念をもっていること、そしてその懸念についてのとらえ方もまたそれぞれであることを認識する

7．1　アドバイスや援助の提供

リスク

善意から、インタビュアーは、その女性にとって何が最善であるか、自分にはわかっていると思い、アドバイスを与え、行動を起こすことを決定するかもしれない。あるいは、女性の境遇がよくなるはずとインタビュアーが信じる行動を女性がとるように追いやってしまうかもしれない。善意からの促しや行動（例えば、トラフィッカーから逃げる、当局に連絡する、まだ心の準備が出来てない事柄について話し合う、など）は、その女性のおかれている状況を本人と十分話さないままでやってしまうと、有害な結果を招いてしまうことがある。

提言

アドバイスをし、介入を行動にうつす前に、女性が自分の境遇をどうとらえているのか、自分のとるべき選択肢は何だと彼女が考えているか、それぞれの選択肢にともなうリスクや恩恵について彼女がどのように理解しているのかなどについて、話し合いがなされなければならない。可能ならいつであれ、人身売買された女性の問題に取り組んでいる専門家のアドバイスを仰ぐのもいいだろう。さらに、それまで彼

人身売買されている状況からの脱出を考えている女性と、話し合うべき問題点：

- **前もって計画することの重要性**
- **彼女の滞在先、どのように生活していくかについての現実的選択肢**
- **誰が彼女を探しにくるか、彼らが彼女、彼女の家族をどれだけ追跡してくるか。**
- **彼女の心理状態と必要とするであろうサポート。**
- **ヒモや、オーナーなどとの依存関係、そして、その関係を脱した後、誰がこのサポートを提供してくれるか。**
  現実的な影響（在留資格、家族のもとに戻る可能性、身の安全、孤独、恐れや精神面でのサポート）

女がとっていた対処方法、生き残り術について女性自身に尋ねることも、女性の境遇の現実を、インタビュアーがもっと理解するうえで助けになる。またこのような質問は、女性自身に自らのもつ強さについて思い起こさせる働きをしてくれる。

もし、インタビュアーが、自分は女性にアドバイスできると考える場合は、中立的な方法でいろいろな援助の選択肢を説明すべきである。インタビュアーは、その際、援助の程度や可能性を誇張しないようにしなければならない。各選択肢は、もし、そうした選択肢を女性が受け入れることをのぞまない場合でも、自分のことを愚かだとか、恩知らずだとか感じることのないように、冷静に提示されるべきである。アドバイスする際には、それに伴うリスクを明らかにし、同時にプラス面も認識すべきである。

トラフィッキングの状況にある女性に面会したインタビュアーが、彼女をその境遇から救いたいと考えるのは、珍しいことではない。しかし、プロとはいえない、非公式の救出は、リスクの高い選択肢であり、救出される側の女性にとっても、満足の得られるものでないことが多い。というのは、現在の状況を脱することで起こりうるさまざまな結果についての、女性自身の認識が不十分であるからである。

以下の点がふくまれるかもしれない：

- 本国の家族に報復が及ぶ危険；
- 一般の認識。彼女自身の選択であり、行動だとみなされることで非難される可能性がある；
- 彼女の動機、信頼性や性格についての疑い；
- 入管や強制送還の問題；
- 借金返済ができないこと；
- 引き続き、シェルターや保護施設の指示、監督下にとどまらなければならないかもしれないこと；
- ヒモであるボーイフレンドとの絆を一切断ち切らなければならないこと；
- 警察への証拠の提出、公開の法廷の場での証言を求められること；
- 拘留、逮捕、刑事上の有罪判決（たとえば、移民法違反、雇用違反など）；
- 任意ではない、あるいはカウンセリングの不十分なHIV/AIDSを始めとするその他の医学的検査。

行動の選択肢についての話し合いが行なわれた後、インタビュアーは、明確で正確な形で準備した紹介情報を伝える。女性が自分の決断を下すための時間とスペースを与えてあげること。

7．2　自分の状況にかかわる女性の選択を尊重する

リスク

最悪の境遇に置かれた女性たちでさえ、こちら側の援助の申し出を拒否することがあるかもしれない。医療扶助、物品の提供や贈りもの、あるいは救出作戦といったものは、「何かしたい」と願うものたちにとっては、大いに魅力的にうつるかもしれない。しかし、上で述べたように、何か行動を起こす場合には、何であれ、事前に女性本人の同意をとることが不可欠である。

提言

インタビューを受けるかどうかの決断に加えて、健康上の懸念について答えるかどうか、自分の感情について語るか、状況から脱するか、その他の個人的問題についての女性自身の選択が、何よりも尊重されなければならない。インタビュアーの目から見て、その状況がどれほど危険で虐待的であろうとも、である。

求められていない救出、当局への連絡、家族との連絡、カウンセラーに情報を知らせることなどは、必ずしも喜ばれないし、女性にためになるとも限らない。たとえば、多くの国で、警察への連絡は、彼女を最初にそうした状況に追いやったエージェント（斡旋組織）そのものに警告を与えることになる。しかし、適切に行われた援助なら、女性の命を救うものともなる（「9．緊急介入の準備をする」を参照）。

アニャは、ヒモであるボーイフレンドが売春斡旋をし、性労働者として働いていた。ジャーナリストの男は、最初、お金のふりをしたやがて彼女の信頼を得ると、彼は、自分がジャーナリストであり、彼女を「救う」手助けをしたいと申し出た。男は、彼女が仕事場を離れ、ジャーナリストの車に滑り込む瞬間など、アニャの「救出」の映像をビデオフィルムに収めた。ジャーナリストは、カウンセラーとのセッションも手配、カウンセラーや知人から何マイルも離れたホテルの一室を彼女にあてがった。彼女はそこに滞在した。友達はいない、またその国にいる、労働許可、滞在許可もなかった。そしてその映像が放映される前に、アニャは姿を消してしまう。伝えられるところによれば、彼女は、ヒモのボーイフレンドのもとに戻ったという。結局、そのジャーナリストは、アニャに実行可能な別の選択肢を提供できなかったということになる。彼女は、ヒモである彼のもとを離れるのを躊躇したと信じることができなかったのだ。映像の放映にあたって、ジャーナリストは、落胆してアニャの姿を探したが、彼女の仕事場の所名や、あざらかにされたところから社会福祉の身元保護の未来[illegible]。[illegible]家族となく、彼女の[illegible]から涙と絶望[illegible]、一枚の写真を撮影した。

8．女性に、再び精神的痛手を与えない
感情を必要以上にかきたてる、乱すための質問はしない。女性の苦しみに応え、そして彼女自身の強さを浮かび上がらせること。

8．1女性に再び精神的痛手を与ることは避けること

リスク

恐ろしく、侮辱的で、苦痛を伴う経験について語ってもらうよう頼むことで、極めて大きな不安を引き起こすことがある。多くの女性は、自分たちが何をしたのか、何が起ったのかを恥ずかしく思っている。女性の悲嘆は、そのインタビューの最中にはじまるかもしれない。しかし、インタビューの前後に現われることもあるのである。多くの女性にとって、自分の体験についてのインタビューがあると考えるだけで、精神的重圧になる。また、インタビュー終了後しばらくたってから、自分が話したことを振り返り、後悔するかもしれない。インタビューにかかるプロセス全体が、トラウマになる女性もいる。

提言

・質問は、女性の強い、感情的な反応をひきだすことを意図したものであってはならない。

・明らかに、女性を苦しめ、彼女の体験を理解するのに必要のない衝撃的な細かい事実についてきくような質問は、除外されるべきである。

・女性の決断、行動について否定的な判断をほのめかすような質問、あるいは彼女の人格そのものを非難するような質問はしてはならない。たとえば、ご両親は、あなたのしたことについてどう思うでしょう？自分は不道徳な人間だと思いますか？あるいは、何故、そのようなことをすることに同意してしまったのですか？など。

多くの女性が、具体的なことがらを話す際、何らかのストレスや居心地の悪さを感じるだろうことを認識しておくことが大切だ。けれども、同時に、多くの女性にとって、こうした問題について話し合い、耳を傾けてもらうことが癒しになるということもまた事実である。したがって、センシテイブな問題について情報を分かち合ってほしいとたのんでおきながら、自分の思いを全部語りおわる前に、彼女の話や感情

の表出を遮ってしまうことは、彼女を動揺させることにもなるということを認識しておくことが重要である。しかし、もし、女性がとても苦しみ、打ちのめされたようになった場合（たとえば、次のような症状が出た場合：震えだす、手に負えないように泣き出す、激しい頭痛、眩暈、吐き気、呼吸が困難になる、急に発疹が現われたり、赤くなったりする）には、このまま続けたいか、話題をかえたほうがいいか、あるいはインタビューをもう打ち切りたいかどうか、女性本人にきくことが最善の策である。

・質問は、女性を支え、励ますようなかたち、中立的なかたちで尋ねるべきであり、それに対する反応も、肯定的、励ますようなものであること。

・インタビュアーは、回答者自身が、インタビューのペースや方向性を決めることができるようにすること。

・ 表情や言葉での反応は、共感的で、中立的、そして励ますようなものであるべきである。

・ インタビュアーは、回答者がつらそうであれば、必要に応じて休憩を申し出るなどして対応する。

・ インタビュアーは、常に女性に対する気遣いを示し、同時に、そのように困難な状況を生き抜いた強さと知性を備えていることを女性自身に思い起こさせるべきである。

・ インタビューを続けるかどうかは、どんな時でも、回答者次第である。感情的になる女性の多くが、インタビューの継続を選択する一方で、そうではない女性ももちろんいる。インタビュアーは、決して、苦しんでいる回答者に継続を無理強いしてはならない。同様に、もし、所定の質問を全て終えた後も、回答者が話したがるような場合には、インタビュアーは、引き続き、集中して耳を傾けるべきである。

・ 故郷から遠く離れている多くの女性たちにとって、家族、とりわけ子どもたちのことを話すことは、大きな気持ちの動揺を引き起こすものであることを知っておくこと。特に、彼女たちが、子ど

二人の女性が、人身売買に関する調査への参加に同意、故郷の町から夜行列車に乗って首都へとやってきた。インタビューを受け、また今まで訪れたことのない首都の観光をし、ショッピングもするためだった。１２時間列車に揺られて、やっと到着。しかし、その頃までに、自分たちの体験を公式の場で、しかも今まで会ったことのない多くの人の前で話さなければならないことに対する不安がだんだん大きくなり、二人とも、極度のストレスと不安をあらわにしていた。その後のインタビューは、結局短く切り上げなければならなかった。

もたちに長い間会っておらず、またいつ再会できるかわからないようなときには、なおさらである。この領域の質問をするときには、とくに女性の気持ちの動きに気を配り、敏感であること。

9．緊急介入の準備をする
もし、差し迫って危険な状態にあると女性が訴える場合には、それに応える準備をする。

9．1　緊急、即時支援を求める女性に対応する

リスク

人身売買などの人権侵害をうけている被害者にインタビューする場合、早急な援助を求める緊急リクエストがあるのは、稀ではない。ただちに援助の手を差し伸べることで、被害者の命が救われるケースもあり、倫理的かつ道徳的義務であるといえる。しかし、間違った方法あるいはまずいタイミングで助けようとすると、かえって逆効果になったり、援助を約束してくれた人々が乗り気でなくなったり、最後までやり通すことができなくなったりするかもしれない。

提言

- 援助の要請があれば、インタビューに優先して直ちに対処すべきである。

- インタビュアーは、自らが直面している危険についての理解、可能な選択肢、そして、援助から何を期待しているかについて、女性から引き出すような質問をすべきである。

- 選択肢についての話し合いは、誇張のない、現実的なものでなければならない。インタビュアーは、各選択肢に伴うリスクと恩恵がそれぞれ女性にわかるように手助けしながら、可能な援助の選択肢について話し合う。

- インタビュアーは、適切な人物や組織に回答者がアクセスできるよう、できる限りの手助けをすべきである（たとえば、サービス機関に電話する、そこまで彼女をエスコートする、など）。

一般的に賢明とはいえない、危険な行動は：

- 彼女と一緒に「逃亡」する；
- 女性をインタビュアーの家に連れていく；
- 回答者にエスコートして、彼女の家や職場に所持品をとりにいく；
- 何であれ、回答者が雇用主、ボーイフレンド、エージェント（斡旋組織）、同僚などと話をするときの手助けをする。あるいは、形はどうあれ、仲裁者としての役目をはたす。

9．2　介入行動に関してフォローアップをする準備をする

リスク

救出、介入行動が１回ですむことは、滅多にない。ほとんどいつもといっていいほど、多くの現実的なフォローアップが必要である。とりわけ、救出を試みる場合には、脱出させることが、最も簡単な部分で、その後に続くロジスティックスと女性に対するケアこそが、複雑で重要なのである。

提言

とりわけ女性が外国にいる場合、ただ「解放される」だけで事足りるというのは稀である。「脱出」の手助けを考える前に、女性が結果的に今よりも悪い状況に陥ったり、捕捉者の元に戻ってしまったりすることのないよう、リスクの全て、さまざまな障害、「救出」した後に必要となる無数の複雑なステップのひとつひとつ全てを検討しなければならない。人身売買された女性が、トラフィッキングの状況を乗り越えて進んでいくのに必要となる、各サービス機関や支援について、知る立場、アクセスをもつ立場にあることはほとんどない。女性が搾取的な状況から脱け出す手助けをするのに、人身売買された女性の援助専門の経験豊かな組織へ、電話一本かければすむという場合もあるだろう。しかし、ほとんどの場合、安全な住居、収入源、医療、心理カウンセリング、入国管理などの問題に対する法定代理人といったものを確認することなども含まれてくる。

隣国に人身売買された少数民族の女性たちが、本国出身の兵士たちの元に戻されたが、その兵士たちが今度は彼女たちをレイプした。

アジアのある売春宿に強制捜査が入った時のこと。警察は正面のドアから建物に入ったが、そこの経営者からいつも賄賂をうけとっていた数人の警察官が裏口からその経営者や働いていた女性の多くを外に逃がしてしまった。

9．3　当局への連絡に関する問題

リスク

ほとんどの女性は、当局と接触したがらない。強制送還を恐れているし、警察などの役人が腐敗していたり、自分たちに対しても冷淡で不親切なのではないかと不安なのだ。多くの場合、彼女たちのそうした不安は根拠のないものではない。受け入れ国の当局は、不法滞在、不法就労している彼女たちを拘束し、刑務所に入れ、強制送還させてしまうことができるのだ。また、彼らは、トラフィッカーに対する証言を無理やり彼女たちにさせることがある。彼らに協力したことでどんな危険が彼女たちに及ぶかもしれないのにである。役人へ連絡することが即、女性を再び、トラフィッキング・エージェント（斡旋組織）の手の中に戻すことを意味する国もある。 多くの貧しい国々では、警察、軍隊、入管の役人、そして時には大使館や領事館の役人までもが、人身売買の輪の一部として、トラフィッカーに協力、あるいは賄賂を受け取っている。

提言

- どこであれ、当局に連絡する前に、女性本人がそれを望んでいるかどうか確認する。

- 役人に連絡することの潜在的なプラス面とリスクを話し合い、各当局によって何が提供されうるかを確認する（例えば、職場からの脱出、雇用主やトラフィッカーを訴追する、ビザの延長、滞在許可など。）

- どの役人が、思いやりがあり同情的であるか確認し、その彼らと協力関係を確立する。

- 回答者のことを当局に連絡する前に、役人たちに実際どんな支援が可能で、またその意志があるのかを確認すること。彼女の法的権利を確認し、それらについて彼女自身と話し合う（すなわち、彼女の滞在資格がどうであるかにより、証言しようという意志、あるいは証言をしない、証人の保護、その国に滞在したい、あるいは帰国したいという希望など)。

１０．集めた情報を有効に活用する

情報を、その女性本人の役に立つよう、関連政策の改善、開発を促進するよう、あるいは人身売買された女性一般のための良い政策や介入を促進するようなかたちで活用する。

良い利用法

NGO のメンバーとのインタビューがウクライナのテレビで放映され、人身売買された娘を探す母親たちから電話が殺到した。これにより、少なくとも、イタリアの売春宿にとらえられていたひとりの若い女性が、救出されることになった。

悪い利用法

あるドキュメンタリー製作者が、ひとりの女性が性労働に人身売買され、その後殺された事実をつかんだ。その殺された女性は、家族には一切、自分の仕事について話しておらず、自分は、ドイツ人の男性と婚約していると言っていただけだった。彼女の死後、その製作者は、彼女が売春婦として働いていた時に殺されたのだという事実を家族に告げに出向き、女性の息子や母親の反応を撮影した。

１０．１　情報を倫理的な方法でいかす

リスク

人権侵害の被害者とのインタビューは、倫理的に中立、当り障りのないような仕事ではない。人身売買された女性によって語られる経験は、明確な目的のもとに集められるべきである。女性のトラフィッキングにかかる人的、社会的、保健衛生上のコストは莫大なものであり、インタビュアー側に、その集められた情報を、その回答者本人の利益になるようにいかすか、政策立案者や擁護者、理想的にはその両者の関心を集めるように使うという道徳的な義務が必然的に生じてくる。

提言

・女性の権利擁護者や直接サービスを提供しているグループを巻き込み、関与してもらうことは、インタビューの安全性、インタビューの方法や通訳の信頼度、整備された支援システムなどを確保するのにいいやり方であるのはもちろんだが、収集した情報が確実に要点をついた関連性のあるものになるよう、現実的な手助けともなる。

・　重要なことは、インタビュアーが、公表された情報が何であれ（たとえば、レポート、新聞発表、公式声明など）、間違った解釈をされていないよう確認すること。また、人身売買された女性に対する世論を煽るような偏見や固定観念に油をすすぐようなことをしないこと。

良い利用法

ギリシャでのリサーチは、人身売買禁止法の制定に向けた法律設計、設定の原動に使われ、人身売買された女性の保護措置の改善を図った。

悪い利用法

被害者保護に関する多国間リサーチは、人身売買された女性のケアと扱いかたに関する役人向けトレーニングの基礎として使われている。

結論

この中であげた各提言は、トラフィッキングの状況にある女性、その状況を脱した女性とのインタビューをするにあたって配慮すべき、倫理、安全面の要件についての現時点での知識を反映したものである。しかし、女性のトラフィッキングは、常にそのパターン、特徴が変化している犯罪である。トラフィッキングの流動的なダイナミクスと特殊な性格、それがもたらす甚大な影響のため、インタビューを行うものは、常に最新の情報に通じていなければならない。そうすることで、インタビューの前、最終そして終了後も一貫して、女性の安全が守られるように明確なプランをたてることができる。多くの場合、インタビュープロセスには、時間がかかり、十分な調査と準備期間が必要である。インタビュアーはまた、個々の回答者に一層の思いやり、気配りをもって接しなければならない。さらに、情報の適切な公開にあたっては、細心の配慮が必要である。これらの提言をまもり、常に女性の安全を最優先することで、インタビューに基づいた情報を求める人々、そしてインタビューを実施する人々は、この深刻な侵害に対する一般の認識そして人身売買された女性に対するケアの質の向上のため、重要な貢献をすることができる。

参考文献

1.United Nations. (2000). United Nations Protocol to Prevent, Suppress, and Punish Trafficking In Persons, especially women and children, supplementing the United Nations Convention Against Transnational Organized Crime, Article 3(a-d), G.A.res. 55/25, annex II, 55 U.N. GAOR Supp. (No.49) at 60, U.N. Doc, A/45/49 (Vol.1).

2. World Health Organization (WHO), (1999). Putting Women's Safety First: Ethical and Safety Recommendations for Research on Domestic Violence Against Women. Geneva: WHO.

3. Office of the United Nations High commissioner for Human Rights, (2002).
International Principles and Guidelines on Human Rights and Human Trafficking. Geneva: UNHCR.

4. Council for International Organizations of Medical Sciences, in collaboration with the World Health Organization. (1993). International Ethical Guidelines for Biomedical Research Involving Human Subjects. Geneva: CIOMS

5. Global Alliance Against Traffic in Women (GAATW), (2001). Human Rights and Trafficking in Persons; A Handbook. Bangkok: GAATW.

6. Presswise.(2002). Ethical Tropics. Gender. Women.
URL: www.presswise.org.uk.

7. Kelly, L.(2000). VIP guide: Vision, Innovation and Professionalism in Policing violence Against Women and Children. Produced for the Council of Europe Police and Human Rights 1997-2000 Programme, Strasbourg: Council of Europe.
[On-line report]
URL:http://www.coe.int/T/E/human_rights/Police/2._Publications/2.

_VIP_Guide/VIP%20GuideDecember%202001%20(pdf%20version)
.pdf

8. For more information on working with women who have been trafficked, see: Global Alliance Against Traffic in Women (GAATW), (1999). Human Rights in Practice: a Guide to Assist Trafficked Women and Children. Bangkok: GAATW.

9. Zimmerman, C., Yun, K., Shvab, I., et.al. (2003). The Health Risks and consequences of Trafficking in Women and Adolescents. Findings from a European study, London: London School of Hygiene & Tropical Medicine (LSHTM), Daphne Programme of the European Commission.

10. World Health Organization (WHO), (1999). Putting Women's Safety First: Ethical and Safety Recommendations for Research on Domestic Violence Against Women. Geneva: WHO.